

(5) 東海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

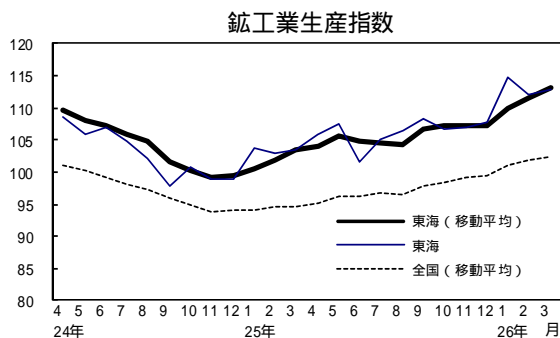
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年2月)	今回(平成26年5月)	
景況判断	回復	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	
鉱工業生産	緩やかに増加	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	
個人消費	堅調に増加	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	
住宅建設	大幅に増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

輸送機械は、消費税率増税前の駆け込み需要を見据え、国内向けに増加の動きがみられたことから増加した。はん用・生産用・業務用機械は、主力の金属工作機械で、北米やアジア向けに動きがみられたことに加え、国内向けも増加したこと等から増加した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けの生産が堅調だったこと等から増加した。化学は、主力の医薬品の低調等が寄与して減少した。プラスチック製品は、自動車向け製品等が好調だったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10~12 月期	1~3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	36.5	2.0	4.1	8.9	6.2	1.2
はん用・生産用・業務用機械	9.9	4.0	9.1	12.6	3.2	5.1
電子部品・デバイス	9.5	2.0	17.1	6.4	11.3	5.8
化学	6.9	0.1	5.7	3.4	5.4	9.0
プラスチック製品	5.9	3.4	6.2	7.0	0.3	1.4
鉱工業	100.0	0.6	5.6	6.3	2.2	0.5

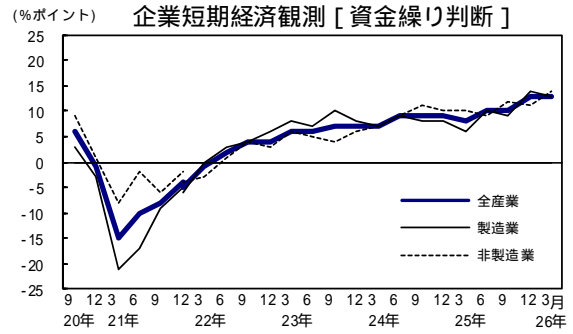
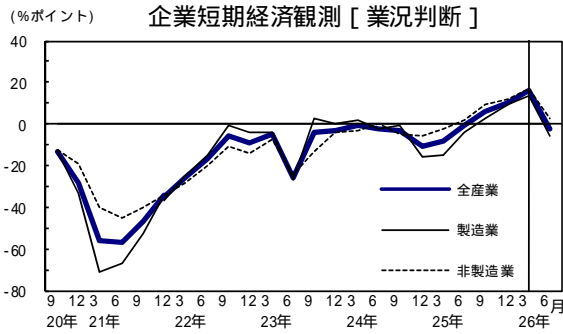
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

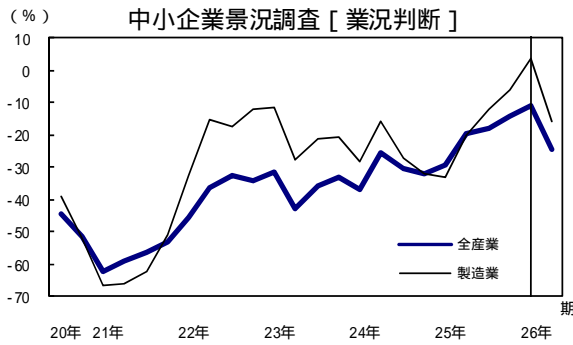
(2) 業況判断は「良い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

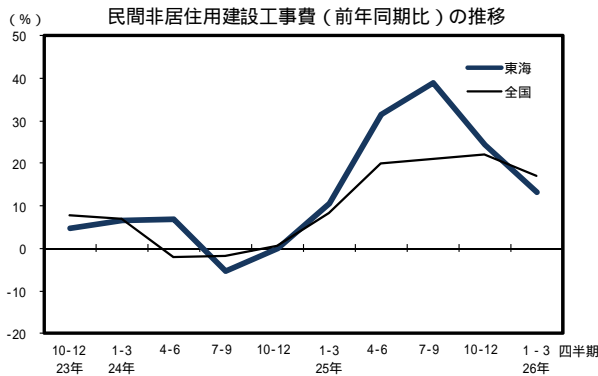


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「消費税増税の影響により、3月下旬からオーダー数が減少している(輸送用機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績見込み	26年度計画
全産業	1.3(3.1)	0.6
製造業	11.0(12.4)	1.2
非製造業	7.3(16.6)	0.0

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.0%減、2月は同1.1%増、3月は同4.6%増となった。

大型小売店販売額

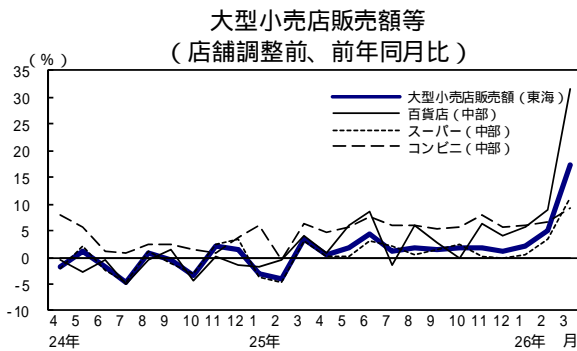
百貨店は、1月、2月は、高額商品の好調に加え、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の動きが見られたこと等から前年を上回った。3月は、高額商品が引き続き好調であったことに加え、消費税率引上げに伴う駆け込み需要や販売促進の効果から、前年を上回った。

スーパーは、消費税率引上げに伴う駆け込み需要に加え、生鮮食品の相場高や販売促進の効果等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、38.7となり前月より17.0ポイント低下した。

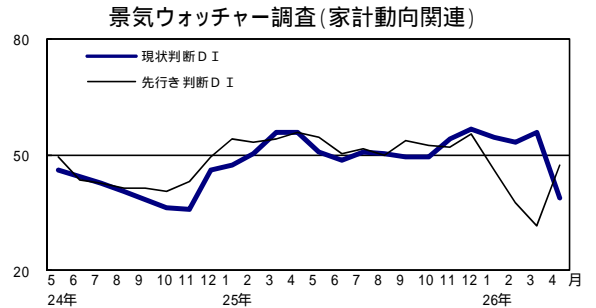
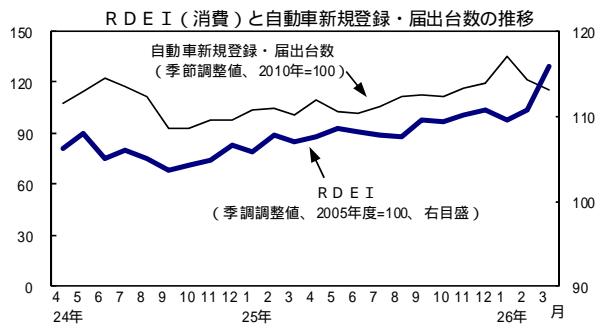
「消費税増税前の駆け込み需要の反動で、売上は減少している。ただしパソコンの買換え需要が堅調で、全体的にはそれほど悪くはない(家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	26年1-3月	26年1月	2月	3月
RDEI(消費*1)	1.9	1.0	1.1	4.6
大型小売店(*2)	8.1	2.0	5.0	17.4
百貨店(*2)	16.0	5.6	9.0	31.7
スーパー(*2)	4.9	0.6	3.3	11.3
コンビニ(*2)	7.4	5.9	6.8	9.2
乗用車(*3)	20.1	32.1	17.3	15.0
(季節調整値)(*3)	7.2	13.4	10.3	4.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

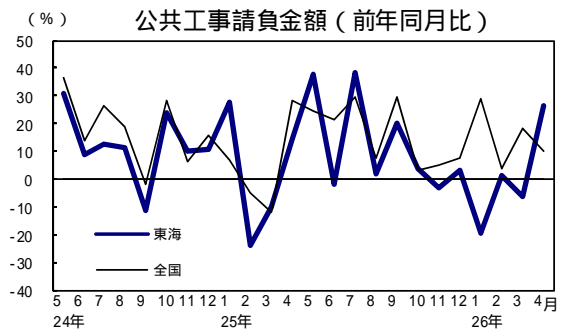
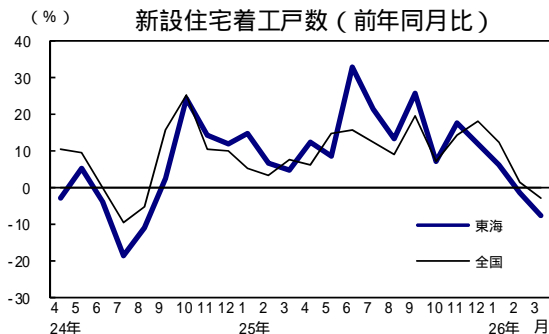
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%) 1-3月、3月は速報値。百貨店、スーパー、コンビニは、中部



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

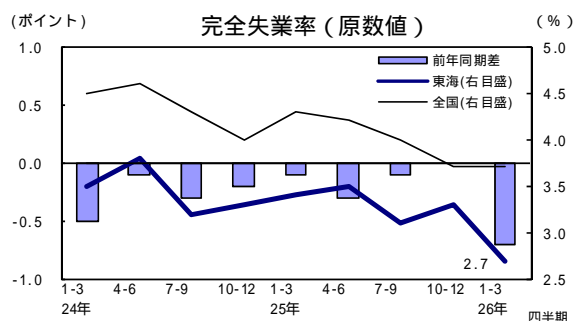
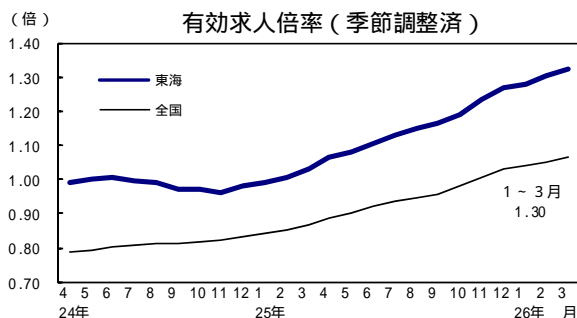


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

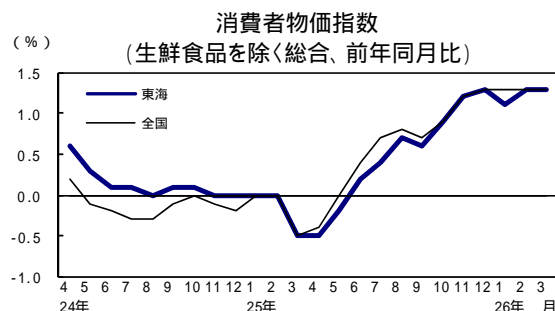
「自動車生産に関しては、4月以降、消費税増税前の駆け込み需要の反動が予想されたが、新型車種で増税前の受注残があるため、それほど落ち込みはない (アウトソーシング企業)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	26年4月
倒産件数	369	326	344	316	108
(前年比)	3.7	12.1	11.0	6.0	12.9
負債総額	665	616	633	456	179
(前年比)	17.4	11.8	17.0	41.6	21.5



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・夜の繁華街は相変わらず人出が少ないが、前年同月よりは、やや人出がある。高速道路を利用する中距離の客が多少増加しているため、1乗車あたりの単価は少し上昇し、売上も少し良くなっている (タクシー)。

<先行き>

・消費税率引上げ後の国内自動車販売台数の減少は想定範囲内であり、今後は新車種投入効果により徐々に持ち直してくると予想する (金融業)。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

